平成２９年度山形県農業普及活動外部評価結果について

１　普及指導活動の体制について（組織・人員体制、普及指導員の資質向上の取組み等）

①　評価点

・　普及指導員が５年後、１０年後･･･にどのようなあるべき姿になるべきかが描ける研修体系は明確で良い。

・ プロジェクト方式による普及活動の展開すべきことが分かりやすく良い。

・ 以前よりも専門的かつ情報量が増している。

②　提案・意見

・　経営体の高齢化、農村の人材不足に対応するため、新たな設備、ロボット、ＡＩ活用などの研修も必要か。

・　ＩＴを使った農業に取り組んでほしい。

・　地域毎のデータをわかりやすく教えてほしい。

③　意見を受けての改善点等

・　平成３０年度から、県内各地に、①給排水遠隔制御装置による水田水管理の省力化、②ＩＴ管理ツールの導入によるすいかの生産工程管理、③小型気象観測装置によるりんご・すいかの病害感染予測、④ハウス栽培管理のモニタリングによる技術継承の展示圃を設置し、民間企業、ＪＡ等と一体となり新技術を開発・実証・普及し、スマート農業を推進していく。

２　普及指導計画について

【評価】Ａ：妥当　Ｂ：概ね妥当　Ｃ：大幅な見直しが必要

（１）東北唯一のセルリー産地再興に向けた人材育成と栽培技術の安定化　【Ａ：４名】

①　評価点

・　課題と目標が明確に設定されている。

・　東北で唯一のセルリーの産地を目指し、生産拡大するというテーマの設定はスケールも大きく評価できる。

・　新規就農者のチャレンジを支援する課題設定が良い。

・　消費者に山形セルリーを覚えてもらい、購買に繋がる活動として料理コンテストなどは良い。（「山形セルリー」の知名度がアップして良い。イベント等もあり面白い。）

・　関係機関を取り込み、普及課の役割をしっかりやっている。

・　技術指導がよかったのでないか。

②　提案・意見

・　３か年で目に見える成果が確認できるが、さらなるアクションを期待する。

・　今後とも新規就農者の確保を期待する。

・　経営体が課題を見つけ解決する体制づくりが大事であり、ベテランと新規就農者は共に産地再興に励んでほしい。

・　連作障害が心配である。

③　意見を受けての改善点等

・　最終年である平成30年度も、関係機関と連携しながら、進めていく。

・　新たな動きとして、平成30年から大規模ハウス団地にICT機器が導入される。測定結果から新規就農者の「気づき」、更なる栽培技術の向上を図るため、普及指導協力委員等と連携した活動を行っていく。

・　連作障害対策では、土壌分析結果を基にした施肥指導、栽培体系への土壌消毒の導入、他産地の事例収集を行っていく。

（２）農産加工品の商品力強化　　【Ａ：１名、Ｂ：１名、Ｃ：２名】

①　評価点

・　農産物の直売所は人気があり、顧客も多くなっているので、売れる商品の開発を目指すという設定は適切である。

・　直売所の変化をよくとらえている。

②　提案・意見

・　果汁工房の果実の飲む酢などは健康志向から人気が出ると思うが、すでに販売されている商品もあるので、他との差別化できるような商品力を付けてほしい。

・　原価計算をされているが容器・包装などにインパクトのあるものを取り入れ、食べたくなるような、手に取って見たくなるような新鮮な商品がほしい。

・　若いママさんたちが好む商品や生姜酢などの健康志向品などの開発をし、従来の物から脱皮してほしい。

・　商品の販売は難しいので長いスパンで行うことが大事である。

・　外部業者との仲立ちは積極的にやる。

・　活動している様子の中で、若い人の意見等があまり見られない。

・　加工品開発と生産との関連性で、山からの収穫物（山ぶどう・サルナシ・マタタビ）の加工への支援は農林水産部の仕事か。

③　意見を受けての改善点等

・　商品化および販売促進を進める中で、若い年齢層にも購入を拡大するため、下記の内容を普及計画に組み入れた。

a.若い人も含めたターゲットに合わせたパッケージ・ラベル・販促ツール（メッセージカード等）の作成研修会開催

b.デザイナー等を活用したインパクトのあるパッケージ作成の個別支援

c.販売店での関係者による求評会、および消費者アンケートにより年代別の嗜好を把握し、商品改善をアドバイス

・　新たに加工事業に取り組む意向のある起業志向者のうち、若手農業者２名に対して、加工品の試作や原価計算、試験販売等を指導し、事業化を支援していく。

・　新商品については販売促進活動が必要なことから、コンクール出品による商品 PR や、マッチング交流会への参加・飲食店への売込等の異業種との情報交換を継続的に誘導する。
・　加工原料農産物の生産については、果樹・野菜担当と連携し栽培技術指導を行っている。山ぶどう・サルナシ・マタタビも加工用として栽培を行っており、引き続き安定生産を推進していく。

（３）「夏すいか日本一」ブランド産地のさらなる強化　　【Ａ：３名、Ｂ：１名】

①　評価点

・　尾花沢といえば「すいか」であるが、活動の背景を考えると課題や目標の設定はわかりやすい。
・　売り上げ増や所得のアップはすばらしい。
・　若手が育成されていることはよいことである。
・　産出額をキープし、価格平均が全国平均より高いことはよい。

②　提案・意見

・　家族の人数が減少し、カットされたすいかが好まれるなど今後の社会の環境変化を意識したＰＤＣＡが大事である。
・　すいか栽培にたくさんの方が係っており、若い、新規栽培者の育成ができる体制だと思うので、新たな作物の導入を検討されたい。
・　これからの時代、スマホとか IT を活用する農業が展開されると思うので、普及課でも研究して発表して欲しい。

③　意見を受けての改善点等

・　消費者へのアンケート調査の結果から今後伸びると見込まれる、「種が少ない食べやすいすいか」の導入に向けて、現在、普及活動計画で現地実証を行っている。平成 30 年度は、本格導入に向けて実証箇所を増やす計画である。引き続き、消費者ニーズを意識した普及活動を進めていく。
・　近年、増加傾向にある新規栽培者に対して、農業士や市町・ＪＡ等の関係機関と連携を強化するなど普及活動計画に位置づけて支援している。
　新たな品目については、すいかを補完する作物として、冬季間の山菜（タラノメ、ウルイ）を新規に導入する若手が増加しており、技術力の向上支援を行っている。引き続き、生産者の所得向上に向けて支援していく。
・　H30 年度から始まる、「やまがたスマート農業普及推進事業」で、トヨタ方式導入による作業改善と炭そ病の予察システムの実証を行う。平成 30 年度から普及活動計画に追加する。

（４）「つや姫」と水稲新品種を軸にした最上産米のブランド化推進
【Ａ：３名、Ｂ：１名】

①　評価点

・　水稲農家が多い地域でありながら、県全体平均より一等米比率が低く、地域の評価向上を目指した課題設定は評価できる。
・　県全体の品質をあげるのにいい課題設定である。

②　提案・意見

・　目標は達成されていないが、直近３年間は県平均に近づけており、成果は認められる。更に、地域の方々の意識と意欲がほしい。
・　山形県のブランド米であり、生産者全体への指導とともに地域にあった指導を期待する。
・　登熟条件が厳しい地域で、土壌や用水の確保等の地域差が大きい中での指導は大変かと思うが、食味コンクールでの入賞もあり、頑張ってほしい。
・薬剤による斑点米カメムシ類の防除は困難な場合もあると思う。色彩選別機の導入を進めてはどうか。

③　意見を受けての改善点等

・　作柄が低下した地域に対し、次期計画では重点化して取り組む。最上地域全体の品質・収量・食味の底上げを図っていく。
・　県単事業で色彩選別機の導入促進に関するものがある。米づくり運動とも連携し、特に大規模農家を中心に導入を誘導することを考えていきたい。

（５）「シャインマスカット」「サニールージュ」の生産振興によるぶどう産地の活性化

【Ａ：２名、Ｂ：２名】

①　評価点

・　果樹生産額の約５割がぶどうである産地を更に活性化するという課題はわかりやすく適切である。
・　品質の向上はよい。単価の増は大きな成果である。
・　貯蔵品という形は、ＪＡの取組みの中で行われ、生産者の負担が少ないことがよい。

②　提案・意見

・　産地が衰退する前に取り組むべき目標を設定しており、秀品割合など成果は現れているが、数量は目標値が高いのかハードルが高いのか、もっと努力が必要なのではないか。
・　県全体でブランド化する組織が必要である。
・　更なる品質の向上に向けて、データを取ってはいかがか。

③　意見を受けての改善点等

・　出荷数量は、29 年度の目標値が高すぎたため、30 年度の目標値を見直しております。30 年度は、既存栽培者の面積拡大に加え、新規就農者や他作物栽培者等に導入推進を図る計画としている。
・　第３次農林水産業元気再生戦略の中に「ぶどう産地活性化プロジェクト」が盛り込まれ、関係機関・団体と一体となって県全体で「シャインマスカット」等のブランド化に取り組んでいる。この普及計画では、同プロジェクトと連動した上で、置賜地域のぶどうブランド化を推進している。
・　30 年度は、実証展示圃を４ヶ所設置し、栽培マニュアルに沿った栽培管理を

行い、生育データを分析して、更なる品質向上につなげていく。

（６）安定生産できる「啓翁桜」産地の形成【Ａ：３名、Ｂ：１名】

① 評価点

・ 冬期間の仕事として注目されており、課題の設定は適切である。
・ 需要があるので、時期としては良いと思うし、冬期の雇用に結びつく。
・ 冬期間の収入アップのためによい。

② 提案・意見

・ 未出荷者が多いのは、新規栽培者や規模拡大している生産者が増えているためと思うが、所得に繋がらない期間の対策が必要である。
・ 置賜地域ということで、雪害対策は年によって差があると思う。その指導は徹底してほしい。

③ 意見を受けての改善点等

・ 西置賜地域の基幹作物である水稲と大規模畑作との組合せに適した品目として推進している。また、安定出荷のために数年かけて面積を拡大する「作付け計画」の重要性を周知するとともに、苗木確保についても支援していく。
・ 雪害対策実証圃の結果を活用しながら、多雪地帯での雪害対策に取り組んでいく。

（７）秋冬出しストックの生産安定化　【Ａ：２名、Ｂ：２名】

① 評価点

・ ここ数年栽培面積が減少しており、生育が難しいアイアンホワイトの生産を安定させ、収益を向上させるという目標は良好である。
・ 新しい技術に取り組んだことは評価する。
・

② 提案・意見

・ Ｈ２９年は１０ａ当たりの粗収益が 1.5 倍となっているが、今後も安定した生産方法を築くには、生産者への技術指導がもっと必要である。
・ 産地であり、生産者も多いようなのでグループを作るなど、周りが見えるような、そして技術向上しやすい体制作りをしてほしい。
・ 天気任せの栽培からの脱却が必要である。

③ 意見を受けての改善点等

・ 実証圃を設置し、新しい技術に取り組み、効果が確認されたので、次年度からの普及活動計画では、生産組織全体への波及を目指している。
・ 気象変動への対応を目指して、生育の基準作り及び技術指導に更に取り組む予定である。

（８）作業受託組織による良質粗飼料生産の多角的支援と転作田における牧草生産技術の構築　【Ａ：３名、Ｂ：１名】

① 評価点

・　庄内牛とはあまり聞かない中にあって、何とか頑張っている畜産農家の所得増を課題としており判りやすい。
・　水田の利用上、的確である。今後も事業拡大が期待される。
・　耕畜連携、若手の農人化等はよい。

②　提案・意見

・　畜産農家と合同会社わらっとの双方がｗｉｎの関係となるように更に普及指導が必要である。
・　次年度の取組みが楽しみである。

③　意見を受けての改善点等

・　本課題は、平成31年度までの計画であったが、合同会社の設立、作業受託や生産体制の整備、経営所得など当初目標を達成した。また、耕種農家、畜産農家の双方からは、地元に必要不可欠な法人として持続的な経営が望まれている。
　このため、指導対象を増やした新規課題「庄内産飼料の生産体制強化と利活用支援」（平成30～31年度）を設定し、庄内地域全体の自給飼料生産体制をさらに強化する予定である。
・　指導対象である、一つの合同会社には引き続き牧草生産技術向上による所得向上、一つの農事組合法人には稲ＷＣＳ生産コスト削減による収益性改善、藤島地域稲ＳＧＳマッチング協議会等には籾米サイレージ（ＳＧＳ）タンパク源の補てん方法を確立し、地域に普及させることとしている。

（９）書面審査課題について［１６課題］

①　評価点

・　最上にらが頑張っている状況を初めて知った。我々も一生懸命、広報していきたい。

②　提案・意見

・　籾米サイレージの取組みをさらに拡大してほしい。
・　飼料用米として様々な方法で作っていってほしい。
・　ラ・フランスの腐らん病検診の目標値を高くする必要があるのではないか。
・　直売所の集客の方法として、直売所の隣に畑をつくり、収穫体験など検討してはいかがか。

③　意見を受けての改善点等

・　天童市での取り組みは、目標面積を達成しましたので、普及活動計画はH29年度で終了となる。新たに尾花沢市において飼料用米サイレージへの取組みが始まっていますので、加工調製方法などの情報を共有しながら、取組みが拡大するよう支援をしていく。
・　飼料用米の利用に関しては、サイレージ調製のほか、圧ぺん籾米や玄米ペレットなど、加工形態を変えることで利用の方法が広がる。加工形態の異なる飼料用米を組み合わせて給与することで、牛への給与割合を高めることができるため、利用事例等について情報発信をしていく。
・　途中経過の目標値であり、数年後は１００％に近づけていく。関係機関とともに、地域全体で体制づくりが整備され、更に推進していく。

・　直売に提供している生産者サイドで態勢を整えるのが厳しいところが多い状況であるが、研修会等で提案し、興味のあるところがあれば検討していきたい。

3　総評

①　評価点

・　地域や対象の背景や課題をしっかり整理して、課題を設定している。
・　関係機関をコーディネートし、体制を整えて、総合的な普及活動を実施している。
・　普及員の皆さんには、農業県である山形を支えてもらっている。

②　提案・意見

・　農業後継者、青年農業者を重点的に支援して、育ててほしい。
・　普及の成果や研究の成果を次年度の生産に生かせるように情報提供・指導をお願いしたい。
・　山形県の農畜産物を観光面も含めて、ＰＲをお願いしたい。
・　高齢化や農業従事者の減少が進む中、ＩＴを使った農業を進めてほしい。
・　農家の収入が増えるように、今後とも頑張ってほしい。

③　意見を受けての改善点等

・　委員の皆様からいただいた貴重な意見を活かして、次年度の普及計画に反映し、地域に密着した産地育成及び担い手の育成を進めていく。また、関係部署との連携を強め、農業振興を図っていく。